



子ども大学学生新聞

第15号
子ども大学
かわごえ新聞部

「好奇心をもって学ぼう」

第7期 188人が入学

子ども大学かわごえの第7期入学式が六月二十八日(土)午後一時から尚美学園大学パストラルホールでありました。新入生は四年生六八八人、五年生四六六人、六年生七四八人の計一八八八人でした。

そのうち入学式に出席した学生は、四年生六四八人、五年生四二一人、六年生六八八人の計一七四八人。ほかに、きょうだい九人、保護者一四四人が出席し、合計三二七人でした。(佐野寛太記者 高階小6年)

入学式は、福原小六年の島未来さんと十重田妃菜さんの司会ではじまりました。

はじめに、都合により欠席した遠藤克弥学長に代わり酒井一郎理事長があい

さつをしました。

つぎに来賓の祝辞があり、川越市の川合善明市長(写真)が「子ども大学かわごえは、好奇心と自発性にもとづく学びの場であり、興味をもって自分の知らないことを追及してほしい」とおっしゃいました。



自ら進んで学習しよう

鶴ヶ島市教育委員会の河上亮一教育長は「子どもたちは、ふだん聞けないことと体験できないことを、しっかりと聞いて、自ら進んで学習し、努力することが大切です」とお話になりました。

尚美学園大学の田邊敏憲学長は「子ども大学で、美しき、楽しむこと、コミュニケーションを学んでください」と言わ

れました。

(浅野璃子記者 杉下小6年)
新入生歓迎あいさつは、月越小六年の岡田理子さんが行いました。岡田さんは「子ども大学とは、学校では学べないことを学べる場所」ということを話していました。

「光の中へ」や「君と」など

ジュニア合唱団が6曲を歌う

つぎに子ども大学ジュニア合唱団の合唱がありました。「ふるさと」「エーデルワイス」「虹の地球」「光の中へ」さあ君と」「チムチムチェリー」「つばさをください」の六曲を二人のメンバーで合唱してくれました。



オリエンテーションでは、部活の紹介や農業体験など特別授業の話がありました。(川村弘希記者 中央小6年)

新4年生に感想を聞きました

「いろいろ勉強できました」

「楽しそう」

「いろんなことがわかる」

新しく子ども大学に入った四年生に「なぜ子ども大学に入ったか」を聞きました。

・松本月華さん(大東東小学校)

「いろいろ勉強できそうだったから」

・牛窪優月さん(武蔵野小学校)

「いろいろ聞けて楽しそうだから」

・高橋茜羽さん(武蔵野小学校)

「いろいろな勉強を教えてもらった

りできるから」

(河野友里記者 寺尾小5年)

・阪井琴葉さん(霞ヶ関小学校)

「おもしろそうだからです」

(土田莉子記者 山田小5年)

・石井ゆいさん(霞ヶ関南小学校)

「初めてだったけど、いろんな人がいて楽しくできた」

・荒木美結さん(杉下小学校)

「いろんなことがわかってよかった」

・古森森音君(鶴ヶ島南小学校)

「すごく音楽のことが分かってうれ

しかった」

(堤彩夏シニア記者 城南中1年)

音楽で大事なものはハーモニー

坂田晃一教授 「音楽の不思議と合唱の楽しみ」

入学式のあと、中央小6年の川村弘希君と山口航君の司会で授業がありました。

授業は尚美学園大学の坂田晃一教授による「音楽の不思議と、合唱の楽しみ」。一時間目は、音や音楽とは何かを勉強しました。

まず、「音とは何か?」です。音は、何かがふるえ、そのふるえが、波のように空気をふるわせて広がり、その空気のふるえが耳のこまぐをふるわせて、このふるえを電気のような信号に変えて脳に伝えることで、音として感じるようになるのです。

音楽は、二つの要素であるメロディー(せんりつ)、リズム(りつどう)、ハーモニー(和音、コード)からできているそうです。

この三つの中で、特に大事なのがハーモニーです。ハーモニーは、メロディーとリズムの中にあると無いとでは、音楽が生きているか、そうでないかが決まるくらい、重要なものだと教えてもらいました。(十重田妃菜記者・福原小6年)

ハーモニーを築く

二時間目は、ハーモニーの成り立ちや

音楽のもと、協和音と不協和音などを学びました。

さいしよにハーモニーの成り立ちについて教わりました。ハーモニーの成り立ち、心地よくひびき合う音をえらんで重ねると、和音ができるといことが



わかりました。

そのあと、音楽のもとも教わりました。音楽のもとには、メロディー+リズム+ハーモニー+音色、サウンドでできていることが分かりました。

学生の授業感想

☆大塚小五年・山本真綺(まき)さん

Q 今日の授業はどうでしたか。

A 音楽のことがよく分かって勉強になりました。

Q どこが勉強になりましたか。

A 歌のしくみが分かったことです。

(増田夢美記者・名細小5年)

☆星野学園小四年・えのもとあおいさん

Q 今日の授業がどうでしたか。

A 楽しかったです。

Q 合唱してみても、どうでしたか。

A みんな、歌い方がキレイでした。

(浅野玲子記者・杉下小6年)

☆高階北小五年・山本愛花さん

Q この授業で一番印象に残ったことは何ですか。

A 音のしくみです。

Q 音のしくみのどこが印象に残りましたか。

A どういう風に出るかが分かったことです。

Q この授業で一番楽しかったことは何ですか。

A 合唱です。

(斎藤和泉シニア記者・大東中1年)

☆わたなべ くるおくん(栄小5年)

A 今日のこうぎはどうでしたか。

Q 自分でも音楽って作っていいかなと思いました。

(大和日菜記者・星野学園小5年)

A 今、みんな知っているし、単純で

簡単なハーモニーを使っている

からです。

(宮本音愛シニア記者・鶴ヶ島中

1年、山口航記者・中央小6年)

坂田先生へのインタビュー

(小島未来記者・福原小6年)

さいしよに、歌を歌いました。合唱の楽しさを体験できるのが輪唱(りんしよう)ということも、くわしく学びました。そして、「かえる」の合唱と「ふるさと」は、今日ならった輪唱を使って歌いました。さいしよに、となりのトトロの歌「さんぽ」も歌いました。

Q なぜこのテーマにしたのですか。

A ふだんの音楽の授業では学ばない大事なことを教えたかったのと、みんなが歌って合唱の楽しさや面白さを少しでも実感してもらえればと思ったからです。

Q 子どものころの夢は何でしたか。

A 子どものころは、あんまり夢はなかったなあ。でも、中学生で建築家になりたいと思い、高校生になつて音楽家になりたいと思うようになりしました。小学校の時からピアノを習っていましたから。

Q なぜ、曲を作る例に、アニメ映画「アナと雪の女王」のテーマソング「レット・イット・ゴー」を使ったのですか。

A 今、みんな知っているし、単純で簡単なハーモニーを使っているからです。

(宮本音愛シニア記者・鶴ヶ島中1年、山口航記者・中央小6年)